

世界の色を守りたい

私たちが毎日を過ごしているこの世界は、静かで穏やかに見える。朝の光に照らされた通学路。友達と笑い合う教室。家に帰れば待っている家族の声。そのどれもが当たり前のように思えるけれど、実はとても脆く、奇跡のように守られているものだ、この度考えるきっかけとなった。

ニュースの画面に映る、遠い国の戦火。焼けた街。泣き叫ぶ子ども、行き場を失った人々。そこにいる一人ひとりにも、私たちと同じように名前があり、夢があり、誰かに愛されている命がある。その命が奪われるということは、世界からひとつの光の色が消えることと同じだ。そう思うと、胸の奥がぎゅっと痛む。戦争は国と国の争いではなく、たった一人の人生を突然奪い去る暴力だ。今日を生きるはずだった人の未来を、無理やり閉ざしてしまう。そこに正しさも勝利もなく、残るのは深い悲しみ

京都府 京都女子高等学校 三年

さかぐち まなみ

坂口 茉奈美

だけだ。だからこそ、私たちは「戦わない」という選択の重さを、もつと真剣に考えなければならないと思う。

命の尊さについて考えるとき、私は、「同じ命はひとつとしてない」という言葉を思い出す。人はそれぞれ違う景色を見て、違う痛みを抱え、違う未来を夢見る。その唯一無二の命が奪われることは、世界の色がひとつ失われることに等しい。だからこそ、命は何よりも大切にされなければならない。

私たちにできることは小さくても、無力ではない。誰かを思いやること、違いを受け入れること、争いを望まない心を持ち続けること。それらは確かに平和へとつながる一歩になる。命の尊さを胸に刻み、争いのない未来を選び続けること。それが、私たちが生きる世界を少しずつ優しくしていく力になると信じている。世界の色を守るために。